

ある日、 森のなか

作・佐藤かつら

【キャスト】

しほ

まなみ

リョウコ

ミキ

子どもたち（何人でも）

通行人たち（何人でも）

第1場　アリ

森の中の少し開けた場所。
奥が少し高くなっていて、手前に古い井戸。
しほが出てくる。

しほ
（大声で）鬼ごっこする者、この指とまれ。

子どもたちが左右から現れる。
歓声をあげながら、鬼ごっこをはじめる。

右や左に逃げているうちに少しずつ子どもたちが消えて、
いつのまにか、しほとまなみだけが残る。

まなみ、もう帰る。
しほ　帰れば。
まなみ　しほちゃん、おうち帰らないの。
しほ　：

しほは地面に何かを描く。
まなみも地面にかがみこむ。

まなみ　しほちゃん、それなに？
しほ　：せんろ。
まなみ　せんろ？
しほ　：。

まなみも地面に絵を描く。

しほ　それなに。
まなみ　おかあさん。
しほ　あたしのせんろの上に、お母さんかないで。
まなみ　：：：しほちゃんのお母さんと、まなみのお母さんねえ、子どものとき友だちだつて。

しほ　しほちゃん、しってた？
：。
まなみ　しほちゃんとまなみ、生まれるまえの友だちだねえ。
しほ　生まれるまえから。
まなみ　え？

しほ 生まれるまえの、じゃなくて、うまれるまえから。
まなみ ふうん：

まなみ あ、アリさん。

しほ :

まなみ アリさんって何食べてるのかなあ。

しほ アリって食べれるんだよ。

まなみ ?

しほ アリって、食べるとおいしいんだよ。

まなみ ほんと？

しほ ほんと。

一年生はみんな食べるんだよ。

まなみ まだ一年生じゃないよ。

しほ みんな、食べるんだよ。

まなみ しほちゃん、食べたの？

しほ うん。

二人、顔を寄せ合い、まなみがアリを食べる。

しほ あー、まなみちゃん。アリ食べた。

まなみ !?

しほ 食べたんだー。きたない。

しほとまなみ、小競り合いをし、
じきにまなみは泣き出す。

しほ 泣くな。

まなみ :

しほ 泣くな。

まなみ 泣いてない。

しほ 泣き虫。

まなみ まなみ、むしじゃない！

しほ :泣いてる。

まなみ 泣いてない。

しほ 泣いてる。(繰り返し)

いつの間にか、リョウコとミキがいる。

リョウコとミキも(子どもの姿で)奥で何かして遊んでいる。

まなみ (上手に向かって)お母さん！

ミキ お母さん、だって。

しほ まなみちゃんの甘えんぼ。
リョウコ 甘えんぼ。

リョウコは奥の地面に何か描いている。

まなみはいなくなる。

しほも地面に何かを描いていたが、ふと石を井戸に投げ込んで、まなみと逆方向に去る。

ミキは井戸のところに近寄る。

ミキ ねえリョウコちゃん。

リョウコ

ミキ 何かいているの？

リョウコ ブラックホール。

ミキ ぶらつくほーるってなに？

リョウコ

ミキ 知らないんだ。

しばらくして、井戸から石の落ちる音。

リョウコとミキが井戸を見る。

音楽。

舞台は少しずつ暗くなる。

第2場 くたからもの

石を交互に蹴りながら、ランドセル姿のしほとまなみが出てくる。
小学4年ぐらい。

少し遅れてミキとリョウコも出てくる。二人は奥で何かして遊び始める。
ミキだけはランドセルを背負っていない。

まなみの蹴った石は井戸に入る。（音はしない。）

しほ あーあ。

まなみ あーあ。

しほ いい石だったのに。

まなみ 半日もったね。

しほ 朝からだから1日だよ。

まなみ 1日かあ…。

井戸をのぞきこんで名残を惜しむまなみ。

まなみ しほちゃん。これ。

まなみ、ランドセルから何か包みを出す。

しほ なに？

まなみ えーしほちゃん、忘れたの？

しほ うん。

まなみ えー

しほ うそうそ。

それが、それ？

まなみ うん。まなみのひみつの物。

しほちゃんは？

しほも包みを取り出す。

しほ はい。

まなみ 見ていい？

しほ いいよ。

何か小さな物。

まなみとしほ、顔を寄せる。

まなみ これ何？

しほ 何だと思う？

まなみ なんか…イガイガして…

もしかしてなにかの…？

しほ そう、ホネ。

まなみ、骨を放り投げる。

しほ 何するの！

まなみ ヒトのホネ——？

しほ えー！

そんなわけないじゃん。

まなみ　でもホネ…
しほ　魚の骨だよ。

3年生のとき、のどにささって、ぜんぜん取れなくて、病院に行ってとってもらった骨。

まなみ　えー、そんなの、なんで持ってるの？

しほ　お医者さんがくれた、記念に。

まなみ　記念に…

ミキ　まなみちゃんのは何？

まなみの包みを開く。何か小さな物。

しほ　なにこれ。

まなみ　ふふー

しほ　なんか…石？

まなみ　へその緒。

しほ　へそ？

まなみ　まなみが生まれたときのへその緒だよ。

しほ　えー何それ。気持ち悪い。

まなみ　気持ち悪くないよ。お母さんが大事に取っておいたんだよ。

しほ　なんで？

まなみ　え、なんでって？

しほ　なんで取っておくの？

まなみ　なんでって…記念に。

しほ　…ふうん。

しほ、まなみの「へその緒」を手いろいろな調べる。

まなみ　なに？

しほ　変だよ、これ。

まなみ　変じゃないよ。

しほ　これ、やっぱり石だよ。

まなみ　えー？　…固まって石みたいになったんじゃない？

しほ　えー…　ほら、ぜんぜん石だよ。

まなみ　えー…

しほ　どこから持ってきたの、これ。

まなみ　お母さんの、ひみつのひきだしから、前にもらっておいたの。

保険証とか、いろいろ入ってるよ。

古ーいティッシュに大事にくるんであったんだよ。

しほ　えー、大丈夫なの、それ？

まなみ　…

しほ
リョウコ
（振り返って）リョウコちゃんは？

しほ
えー忘れたのー？

リョウコ
ミキちゃんに…

しほ
ミキちゃん？

ミキ
え？ ランドセルに…

リョウコ
ミキちゃん、ランドセルは？

しほ
ランドセル…忘れた？

ミキ
…忘れた。

リョウコ
信じられない。

ランドセルは小学生の心だよ。

しほ
リョウコちゃん、おばさんみたい。

ミキ
心を亡くすと書いて忘れると読む…

しほ
ミキちゃんまで？

まなみ
まなみ、意味がわかんない。

ミキ
森だ。

しほ
森のどこ？

リョウコ
リョウコのひみつも？

ミキ
とってくる！

リョウコ
ミキちゃん！

ミキ、奥に走り出し、リョウコは後を追いかける。

まなみ
ねえー？

しほ
…行っちゃった。

まなみ
森って、広いよね。

…どうする、しほちゃん。

しほ
しょうがないなー。

さ、まなみちゃん。

しほ、二つの包みを持って、

しほ
まなみちゃん、おいのり。

まなみ
むにゃむにゃ

しほ
むにゃむにゃ…やあつ。

しほ、包みを井戸に落とす。
すぐ「ポチャン」という音。

まなみ あー！

しほ なに。

まなみ しほちゃん！ なんてこと…ああ。

しほ だって、ひみつなんだから。

まなみ ああ…お母さんに知れたら…

しほ 知れないよ。

まなみ 知れない…？

しほ だって、これは二人のひみつなんだから。

まなみ まなみちゃんもあたしも、誰にも言わないんだから。

まなみ えー…

まなみ、井戸をのぞきこんで名残惜しそうに。

まなみ お母さん…

しほ まなみちゃん、お母さんお母さん、って言い過ぎ。

まなみ そういうの、マザコンって言うんだよ。

まなみ 言わないよ。

しほ 言うよ。

井戸から「ポチャン、ポチャン」という音。

しほ・まなみ （口々に）え、何これ？

何が落ちたの？

しほ …もしかして、さっきのひみつを落とした音？

人々、左右から行き交う。町の雑踏。

しほとまなみはそのまま（舞台上で）着替える。

二人は三十代の女性になる。

第3場 再会

しほとまなみ、すれ違う。

しほ ？

まなみ ？

しほ あ、しほちゃん！

しほ あ、まなみちゃん。

二人、再会を喜ぶ。

まなみ えー、いつ帰ってたの、こっちにー。

しほ あー、ちょっと前に。

まなみ そーなんだー。

しほ あ、なに、今日は…。

まなみ あー、子どもの買い物…。

しほ しほちゃんは？

しほ あ、こころへんに勤めてて。

まなみ あーそうなんだー。

しほ …お子さん、もう小学生くらい？

まなみ あーうん、もう背ばかり大きくなって、生意気でー。

しほ …だんなさんは？ 何してる人？

まなみ ふつうよ、ふつう。

しほ しほちゃんは？ 結婚は？

しほ あ、一人。

まなみ そうなんだ。

二人、なんとなく笑う。

「なつかしい」「何年ぶり」とか何とか。

しほ リョウコちゃんたちも、こっちいるのかなあ。

まなみ リョウコちゃん？

しほ ほら、リョウコちゃんとか、えーとミキちゃんも。

まなみ え、それ、だれ？

しほ え、だれって、忘れちゃったの、みんなで森に行ったじゃない。

まなみ 森…は、覚えてるけど。

しほ クラスの子だったけ？

しほ ちがうよ、ほらいっしょに井戸に行ったー。

まなみ 井戸？

森の井戸？

しほ、井戸を見つけ、じっと見つめる。

音楽

しほとまなみ、退場。

第4場　母

大人のミキとリョウコ、すれ違う。

リョウコ　？

ミキ　？

あ、リョウコちゃん！

リョウコ　あ…ミキちゃん…。

ミキ　なんか久しぶりだね。

どうしたの？　最近？

リョウコ　んー、仕事を始めたから…。

ミキ　えー仕事？

リョウコ　あ、勤めをはじめて。ここらへんなんだけど。

ミキ　あーそうなんだ。

あれ？　じゃあ子どもはどうしてるの？

ほら、しほちゃん。

リョウコ　ああ、うん。

ミキ　あ、学童保育？

リョウコ　あ、ううん。

あ、実家？　お母さんに見てもらってるのか？

リョウコ　ううん。

実家なんて、ずっと帰ってないわ。

ミキ　：

実家ね、そもそも結婚にも反対だったから…。

：結婚に反対だったたら、離婚には賛成してくれてもいいのにね。

ミキ　あー、あたし、知らなくて…。

リョウコ　誰にも言ってなかったから。

ミキ　でも、最近は珍しくもないよね、うん。

そりゃ母子家庭は大変かもしれないけど。

リョウコ　母子家庭じゃないから。

ミキ　？

今、あたしひとり家庭。

ミキ　え。

じゃあ、子ども…。

リョウコ　子どもかあ…忘れた、なんてね。

ミキ　忘れたなんて。

リョウコ　：心を亡くすと書いて忘れると読む。

ミキ　リョウコちゃん…。

音楽

第5場 井戸のひみつ

しほ・まなみ、再びランドセルで石をけりながら出てくる。

まなみの蹴った石は井戸に入る。（音はしない。）

しほ あーあ。

まなみ あーあ。

しほ いい石だったのに。

まなみ 3日もったね。

しほ 月曜からだから4日だよ。

まなみ 4日かあ…。

すごい石だったよね。

まあ、まなみたちの協力もすごかったけどね。

井戸をのぞきこんで名残を惜しむまなみ。

まなみ あ、しほちゃん。

しほ なーにー？

まなみ 井戸、井戸。

二人、井戸にそろってワクワクして待つと、しばらくして井戸から「ポチャン」という音。

二人 うー（とかなんとか、喜ぶ）

二人はあたりを見回し、石か何かをいくつも拾う。

顔を見合わせ、井戸にどどどと落とす。音はしない。

井戸のほとりで再び待つ。

しほ …まなみちゃんさあ…

まなみ …？

お母さんに似てるって言われる？

しほ うーん…どうして？

…あたしのこと、お父さんがねー。

「お前は母親似だ」って。

…口ごたえしたり、なんか悪いことかしたとき。

まなみ ふうん…

しほ …

まなみ まなみね、顔まるいとお母さんに似てる、ってよく言われるよ。

しほ ふうん：

まなみ ね、似てるかなあ？

しほ 違うんじゃない。

まなみ そう？

しほ まなみちゃんの顔、まる、じゃなくて、まんまるだもん。

まなみ ちゃんたち家族で向こうからやってくると、まなみちゃんたちだってすぐわかる。全員顔まんまるだから。

悪いと思っていままで言わなかったけど。

まなみ しほちゃん、ひどーい。

しほ ……シーッ。

井戸から「ポチャンポチャンポチャン…」

しほ うん。

まなみ すごい。

しほ まるでブラックホールだ。

まなみ ブラックホールってなに？

しほ ……

まなみ しほちゃんも知らないんだ。

しほ なんでも捨てられる。

まなみ 捨てるの？

しほ ……

まなみ 何を？

しほ ……捨てたいもの

まなみ ランドセルのパンとか？

しほ 給食のパンの残り、また入れっぱなしにしたの？

まなみ してないよ（↑うそ）

しほ、石を拾って落とす。

しほ 人の死体とか

まなみ うゝ（怖がりながらも喜ぶ）

しほ 子どもとか。

まなみ 子どもは、捨てないよ。

しほ そうかな；

子供を捨てる人はいるよ。

間

しほ …この井戸のこと、二人のなにしょにしようね。
まなみ ないしょ？

しほ そう。誰にも言わないの。

今までのひみつよりぜんぜんすごいから。

リョウコちゃんたちにも言わないの。

まなみ 誰にも？

しほ うん。

まなみ お母さんにも？

しほ 絶対ダメだよ。

まなみ うん。

しほ …あ、ユウ君にも言っちゃだめだよ。

まなみ ユウ君に？

男子になんか言わないよ？

しほ だから二人のひみつ。

まなみ しほちゃんとまなみの？

しほ うん。

まなみ ひみつ…

「ポチャン」と音。

しほとまなみ笑い合う。

まなみ ねえ、しほちゃん？

しほ なーにー？

まなみ リョウコちゃんって、だーれー？

しほ えーまなみちゃん、おかしいよ。

リョウコちゃんとミキちゃん、いつも一緒に来てるじゃん。

まなみ おかしいのはしほちゃんだよ。

森にはいつも二人だけで来るじゃない。

いつも、しほちゃんとまなみの二人だけで。

音楽。

しほ・まなみ、去る。

第6場くピアノの帰り

小学2年ぐらいのリョウコとミキ。

ピアノのお稽古のバッグを持っている。稽古帰りらしい。

石を蹴りながらやってくる。

ミキ 大記録達成！

リョウコ

ミキ 1週間だもんね。

よく続いたよね、すごい石だ。

リョウコ

ミキ もうだめかも、ってことが何回もあったね。

そのたびに奇跡的に持ち直したよね。

リョウコ

ミキ あ、リョウコちゃん、ちり紙ある？ 石を包むから。

リョウコ ミキちゃん。

ミキ あ、ちり紙はミキが持ってた。

そうだ、ミキ、すごいこと発見したんだ。

リョウコちゃん知りたくない？ ここの井戸のひみつ。

あたし帰る！

ミキ (びっくりする)

リョウコ

ミキ リョウコちゃん、怒ってる？

リョウコ 怒ってない！

ミキ ；リョウコちゃん、すぐ怒る。

そのまま立ち去ろうとするリョウコ。

ミキ チビんとこ、寄っていかないの？

ミキ、今日、シーチキン持ってきたんだ。

ミキ、カバンから缶詰を出して、地面に並べる。

リョウコ あたし、ピアノやめる。

ミキ え？

リョウコ ピアノ、もうやめる。

ミキ お教室、ミキちゃん、これから一人で行きな。

え、なんで？

リョウコちゃん、まだ始めたばかりなのに。

リョウコ なんでも。

ミキ リョウコちゃん、今日だって、スジがいいってほめられてたのに。

リョウコ ；。

ミキ なんで？

リョウコ ；。

ミキ　じゃあ、ミキもやめる。
リョウコ　…すぐまねする。
ミキ　やめるもん。
リョウコ　リョウコちゃんやめるなら、ミキもやめる。
リョウコ　やめるな。
ミキ　やめるやめるやめる…

リョウコ、ミキを突き飛ばす。

リョウコ　ピアノなんて！
ぜいたくなんだから！
ピアノなんて、すぐ弾かなくなるのにムダなんだから！
ミキ　ムダなの？

リョウコ　…ミキのお母さんね、ミキにピアノ習わせるの、夢だったって。
あたしがお母さんになったら…

ミキ　？

リョウコ　あたしは将来お母さんになったら、ムスメにはピアノ習わせるの。

ミキ　？

リョウコ　だから…今はいいの！

ミキ　リョウコちゃん？

リョウコとミキ、ふと上を見上げる。

リョウコ　雨。

ミキ　…チビ！

リョウコ　あ！　チビ、濡れちゃう。

リョウコとミキ、駆け出していなくなる。

雨の音。

第7場　合唱コンクール

雨。

まなみとしほは中学一年。

学校からの帰り道。二人とも傘をさす。

しほは早足で歩き、まなみがその後をついてくる。

まなみ しほちゃん！

しほ …。

まなみ しほちゃん、なに怒ってるの？

しほ、立ち止まる。まなみも。

しほ 怒ってない。

まなみ 怒ってる。

しほ …まなみちゃん、勝手にあたしの名前、出さないで。

まなみ え、なに？

しほ 合唱。

まなみ え？

しほ 合唱コンクール。

まなみ あ。だって。

しほ だってじゃない。

まなみ しほちゃん、いやだったの？

しほ まなみちゃんが頼まれたんだから、まなみちゃんがやればいいんじゃない？

まなみ だって、まなみのピアノ、すごい下手くそなんだよ。

まだツエルニーの百番も終わってないし。

でも、あたしを推薦しなくってもいい。

しほ え？ だって。

まなみ しほちゃん、ピアノすごくうまいじゃん。

しほ ユウ君だって、しほちゃんのショパンほめてたし。

あたし、合唱の伴奏なんてしたくない。

まなみ あ、歌う方がいい？

しほ でもしほちゃん、悪いけど…（笑）オンチじゃん。

しほ 関係ない。したくない。

まなみ え？

しほ だって、ずっと前、言ってたじゃない。

合唱のピアノ、いいなあって。

中学生になったら、絶対伴奏係やるんだって。

歌歌うより、ずっといいって。

しほ 忘れた。

まなみ だから、先生に言われたとき、しほちゃんがやります、って言ったんだよ。

しほ まなみちゃんのバカ。

…あたし、もうずっと昔にピアノやめてるし。

まなみ そんな子に、どうしてピアノやれます、なんて言うの？

え？

まなみ だって、しほちゃん、お稽古やめただけじゃん。

おうちのピアノ、弾いてるって言ってたじゃん。

しほ 弾いてないよ。
まなみ えっ。

しほ …アパートに…アパートにピアノなんか置けるわけじゃないじゃない。

前の一戸建てと…お母さんがいたときと違うんだから！

まなみちゃん、そんなのもわかんないの。

でも…、まなみ…、やっぱり、しほちゃんの方が、ずっと、上手だと、思うな…

（だんだん自信なくなる。）

まなみ まなみちゃんのバカ。

しほ ごめんね…。

まなみ バカ。

しほ ごめんね。（泣く。）

まなみ 泣くな。

しほ ごめんね…。

まなみ 泣くな。

しほ ごめんね。

まなみ・しほ、着替える。

第8場 高校生

電車の音。

まなみとしほは高校生。

たまたま電車で乗り合わせて、お互いに気付く。

まなみ あ、しほちゃん…

しほ あ。

間

しほ いつもこの時間？

まなみ うん…

しほ あ…

しほ なに？

まなみ ううん、なんでもない。

何となく気まずい。

まなみ あ。テニス部なんだ。
しほ うん、バドミントン。
まなみ ああ…

素振り千回、とか？

しほ （少し笑って）そんなにしない。

まなみ あたし、茶道部。

しほ え？

まなみ お茶。（とお茶を点てるまね）

しほ 素振り？

まなみ 素振りはしない。

二人、少し笑う。

まなみ 先週、チビが死んじゃったんだ。

しほ え？

覚えてない？ チビ。

しほ あ。前のチビのあと飼い始めた…

まなみ うん、二代目の。

しほ そう…

まなみ うん…

しほ 泣いたでしょ。

まなみ え？

しほ まなみちゃん、泣いたでしょ。

まなみ 泣かないよー

まなみ …ほんとは泣いた。

しほ うん…

まなみ 三日泣いた。

しほ まなみちゃん、泣きすぎ。

まなみ うん…

しほ まなみちゃん、いつも泣く。

まなみ うん、ごめん。

まなみ しほちゃんは、泣かなかった？

しほ え？

まなみ お母さん…亡くなって、しほちゃんは泣かなかった？

しほ なんて知ってるの？

ああ、まなみちゃんのお母さんか…

まなみ …

しほ　そもそもいなかった人だし：
まなみ　あたしのお母さんが言ってた。

一度でいいから。

しほ　会いたくないから。

まなみ　：

しほ　会いたくなかったから。

しほ　：それよりまなみちゃん、ユウ君と付き合ってるんだって？

まなみ　あー、うん…。誰から聞いた？

しほ　：なんとなく。

まなみ　ふーん：そうなんだ。

しほ　：ごめんね。

まなみ　なんでごめんとか言うの。

しほ　うん、ごめん。

井戸に光。

しほ　じゃあね。

しほ　しほ、電車を降りようとする。

まなみ　しほちゃん、駅違う。

しほ　なんでこんな所に井戸が？

まなみ　しほちゃん。

しほ　ねえ、まなみちゃん、井戸：

しほ　しほとまなみはそのまま舞台にとどまる。

第9場　チビ

雨の音。

リョウコとミキ、泣きながら出てくる。

ミキ　（泣きながら）チビ…。

リョウコ　（泣きながら）ミキちゃんが悪いんだからね！

ミキ　だって、リョウコちゃんだって。

リョウコ　あたしは言った。だめだって言った。

チビは…

とにかく、だめだって。

ミキ

だって。

だって。

雨、ひどかったし。

リョウコ

やったのはミキちゃんだからね。

ミキ

でも、リョウコちゃんが、ビニール袋がいいって…。

リョウコ

見つけただけじゃん。

ミキ

だって。

チビ、雨に濡れたら、かわいそう…

リョウコとミキ、しゃがみこむ。

ミキ・まなみ

（声をそろえて）死んじゃうかもって。

反対側でしほとまなみが続ける。

しほ

泣くな。

まなみ

しほちゃん…。

しほ

まなみちゃんのバカ。

まなみ

…うん。

まなみ、バカだから。

しほちゃん、ごめんね。

しほ

あたしにごめんて言うな。

チビに言え。

チビにごめんなさいって言え。

まなみ

（大泣き）

しほ

チビ、死んじゃったんだよ。

死んじゃったら、会えないんだよ。

絶対、会えないんだよ。

チビは…。

リョウコ・しほ　チビのお母さんにももう会えないんだよ。

雨の音

リョウコ

忘れちゃったら、会えないんだよ。

しほ

忘れられたら、会えないんだよ。

ミキ

心を亡くすと書いて、忘れるって読む。

まなみ

しほちゃんのお母さん、しほちゃんのことを忘れたの？

リョウコ 心をブラックホールにしたんだよ。

ミキ リョウコちゃん、意味が全然わかんないよ。

しほ ブラックホールはあたしだよ。

まなみ 捨てられた子どもは、いつまでもブラックホールの中だよ。

リョウコ 捨てられてないよ。チビもしほちゃんも。

ミキ 捨ててなかったよ。

しほ 捨ててないよ。

チビ みたいに、だからあたしは、ブラックホールの中。

まなみ お母さん。

しほ 泣くな。

ミキ 帰る。

リョウコ ミキちゃんすぐ帰るっていう。

まなみ 帰る。

しほ 帰ればいいの。

まなみ お母さん…

しほ まなみちゃんの甘えんぼ。

まなみ、ミキの元に近寄り、抱き合う。

まなみとミキ、立ち去る。

しほ 帰ればいいじゃん。

…お母さんのところに。…帰れば。

しほ、反対側に立ち去る。

リョウコ、それをじっと見送る。

いつの間にか音楽。

人々が行き交う。雑踏の音。

第10場 再会の続き

しほとまなみ、すれ違う。

しほ ?

まなみ ?

あ、しほちゃん！
あ、まなみちゃん。

二人、再会を喜ぶ。

まなみ えー、いつ帰ってたの、こっちにー
しほ あー、ちょっと前に
まなみ そーなんだー
しほ あ、なに、今日は…。
まなみ あー、子どもの買い物…

しほ …だんなさんは？ 何してる人？
まなみ ふつうよ、ふつう。
しほ しほちゃんは？ 結婚は？
しほ あ、一人。
まなみ そうなんだ。

二人、なんとなく笑う。

「なつかしい」「何年ぶり」とか何とか。

しほ …だんなさんて…ユウ君？
まなみ まさか！ そんなわけないじゃない。

まなみ …しほちゃん、ユウ君のこと好きだったでしょ。
しほ えー…忘れた。
まなみ 心を亡くすと書いて忘れると読むよ？
しほ それ、まなみちゃん、昔からよく言ってたよね？
まなみ えーそう？

母の口癖だったから、うつっちゃってー

まなみ あたしね、ほんとね。
しほ ？

まなみ もしかしてしほちゃん、
しほ こっちに帰ってきてるかも、って思ってた。
まなみ えー、なに？
しほ 去年だったかな…

しほ 母が、お母さんがねー、見かけたって言ってたから…
まなみ ああ、そうなの。

まなみ ちよっと出かけて帰ってきたら、なんか興奮しててね、リョウコちゃんに会った、リョウコちゃんだ、って…

リョウコちゃん…って、しほちゃんのお母さんでしょう？

しほ

まなみ
ねえ…そんなはずないのに。

しほ
うん…

まなみ
それで、しばらくしてから気づいてね、あ、しほちゃんかも、お母さんはしほちゃんを見かけたのかも、って。

しほ

まなみ
お母さんね、そのころ少しね、ボケが入ってて。

しほ
そうなんだ。

まなみ
そんなにひどくなかったんだけど。

まだ元気だったし。

しほ
まだ？

まなみ
お母さん、今年のはじめにね、心臓の方があれで…亡くなっちゃったの。

しほ
あ…（知らなくて）

まなみ
ま…ねー

しほ
…そんなに似てるって？

まなみ
え？

しほ
あたし…母親に…似てる？

まなみ
うーん、あたしも、ほら直接には知らないけどさ、

…しほちゃんも覚えてないんだ。顔とか。

しほ
写真もなかったしね。

まなみ
…あたしね、お母さんの世話しててね、あーこんなお母さん、昔会ったことある

…って気がして。

しほ
どういふこと？

まなみ
ほらぼけちゃうと、人って子どもにかえるって言うじゃない？

しほ
うん

まなみ
子どもだったお母さんと一緒に、こんなふうに遊んだことがあるような。

しほ
あたしは…

顔も覚えてないから…

まなみ
じゃあ、ほら、鏡見ればいいんじゃない？

しほ
？

まなみ
あたし、たまにね、鏡見るとびっくりする時があって。

まなみ
まんま母親だから。

鏡に向かって、あ、お母さんだ！…なんて。

しほちゃんも、鏡見たらいるんじゃない？ しほちゃんのお母さん…

しほ
しほ、うしろを向く。

リョウコとミキ、静かに現れ、二人の後方に立つ。

まなみ やだ、しほちゃん、泣かないで。
しほ …泣いてない。
まなみ 泣いてる。
しほ 泣いてない。

しほとリョウコ、まなみとミキは、
鏡越しに顔を合わせる。
しほとまなみは立ち去る。

第11場 生まれる前の国

そのまま、リョウコとミキ。

ミキ あ、あたしね、あの石、今も持ってるんだ。
リョウコ どの石？

ほら、井戸のどこまでリョウコちゃんとミキで蹴ってた…
（ポケットをさがす）あれ？ へんだな…

絶対あるはずなんだけど…

リョウコ ミキちゃん。

ミキ ずっと大事にしてたんだよ。

大人になってもずっと。

リョウコ ミキちゃん。

ミキ え？

リョウコ いいよ。

ミキ そう…

間

ミキ ねえ、なんでここにいるの？

リョウコ うん？

ミキ なんで私たちはここにいるの？

リョウコ …生まれる前だからじゃない？

ミキ 私たちが生まれる前？

リョウコ そう。

ミキ じゃあ、生まれたらまた会えるの？

リョウコ うん、何度も会える。

ミキ 私たちは何になるの？

リョウコ たとえば…アリ。

ミキ アリ？ うーん、アリかあ。

リョウコ いや？

ミキ いやー、いやじゃないけど…

リョウコ ただの阿里がいやだったら、女王アリはどう？

ミキ うーん、ちょっと考えさせて…

リョウコ ねえミキちゃん。

ミキ アリ…

リョウコ あたし、会いたかった。

ミキ ミキに？

リョウコ （首を振る）いやミキちゃんにも会いたかったけどね

…でも、もっと。

ミキ うん。

リョウコ でも、会えなかった。

ミキ …いろいろあったんだよ。

リョウコ いろいろあっても、会いたかった。

ミキ 女の子になろう。

リョウコ え？

ミキ もう一回女の子になって、会いに行こう。

リョウコ 女の子はすぐおばあさんになるよ。

ミキ 大丈夫。

もう一回女の子になる。

そしたら、私たちも会える？

リョウコ うん、何度でも会える。

二人、顔を見合わせ笑う。

二人は去る。

第12場 老人ホーム

老人の介護施設。

ミキに連れられて、まなみが出てくる。

まなみは八十代かそれくらい。

ミキ

まなみさん、こっちの方があつたかいでしょー？

まなみ

はあい。

反対側から、しほ、八十代。リョウコに連れられている。

リョウコ あれ？（しほに）武田さんもひなたぼっこ？

しほ （モグモグ）

リョウコ （まなみに）一緒にいいですよねー？

まなみ はい。

ミキ （まなみに）武田さん新入りさんだから、いろいろ教えてくださいね。

（二人に）お友達になってくださいねー。

リョウコとミキ、二人を座らせて出ていく。

ひなたぼっこをする二人。

まなみ ……なんでここにいますか？

しほ ……はいー？

まなみ なんでするんですかー？

しほ はー

まなみ なんで私はここにいますかー？

しほ （モグモグ）

じきに二人、地面のアリを気にしはじめる。

しほ アリさん。

まなみ （モグモグ）

しほ アリは甘いです。

まなみ はー？

昔、アリをよく食べました。

しほ はー。

まなみ

顔を寄せ合い、二人ともアリを食べはじめる。
少しずつ静かな音楽。

しほ おいしい。

まなみ おいしい？

しほ おいしい。

まなみ ほんと？

しほ うん。

まなみ あまいねー。

二人、その繰り返し。

いつの間にか二人は、子どもに戻る。

まなみ いしー

しほ 石？

まなみ へその緒じゃない、石だよ。

しほ 奇跡の石。

しほ 奇跡？

まなみ 1週間続いた石！

しほ えー？

まなみ 絶対！

ちり紙で包んで引き出しに入れておいたもん。ね？

しほ、石を受け取り、眺める。

しほ まなみちゃん、お祈り！

まなみ (喜んで) お祈り。

しほ、石を落とす。

二人は静かに聞き耳を立てる。

少し待ってから、中央に戻る。

しほ ときどきするね。

まなみ ね、まなみちゃん。

しほ ？

まなみ ねちゃったの？

しほ ？

まなみ おかあさん、まなみちゃん、ねちゃったー！

間

しほ おかあさんー！

まなみは地面に丸くなる。

しほもそれに寄り添うように横になる。

音楽大きくなる。

あたりは暗くなる。

幕ー

〈おねがい〉

この戯曲は、「佐藤かつら戯曲館」への掲載にあたり記号の表記などを一部改めて打ち直し、体裁を整えたものです。ダウンロードして練習脚本などとしてお使いいただくことができます。実際に上演される際は「佐藤かつら戯曲館」ホームページにあります「上演を検討される方へ」をお読みの上、ご連絡ください。